

## 2018年度 卒業式式辞

卒業生の皆さん、おめでとうございます。また、学びを支え、ご出席くださいましたご家族の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。教育・指導にあたってこられた教職員の皆さま、ご臨席くださいました理事会・来賓の方々にも感謝申し上げます。「コングラチュレーションズ！」この言葉は、皆で共に喜ぶということで、その思いがいっぱいにこもった言葉です。

さて長寿社会を迎え、卒業後の人生は六十年、あるいは七十年に及ぶでしょうか。その長い人生を生きていくうえで、皆さんにとって本学での学生生活は大きな拠り所となります。中京大学は、皆さんがこの先どのような分野、どのような地で活躍されるにしても、母校です、母校とは、英語ではAlma Mater（アーマ・マター、あるいはアルマ・メイタ）です。一〇八八年創立の世界最古のイタリアのボローニャ大学の校訓ともなっているラテン語Alma mater studiorum（学びを養ってくれた母）に由来します。そこで、本卒業式を通じて皆さんの母校、中京大学について確認しておいていただきたいことをお話します。

まずは歴史からです。本学は一九五四年に開学し、六五年の歴史を持ちます。商学を学ぶ単科大学から出発し、その後体育学部、法学部、文学部を加え、総合大学への歩を進め、一九九〇年理系の情報科学部（現工学部）が設置されるなどして現在は文系・理系合わせて十一学部で1万三千人が学ぶ大学となっています。卒業生は、学部だけで十三万人に及びます。それだけの同窓生が国内外で活躍しています。皆さんも本日からその仲間入りです。こうした歩みにおいて是非心にとめていただきたいのは、《進取》の精神です。進取とは、進んで新しいことに取り組もうということです。時代のニーズを踏まえた新学部の設立や他の大学に先駆けて行ってきたことが本学には多くあります。皆さんもこの気風をDNAとして受け継いでいることを忘れず、それぞれ果敢にチャレンジしていきましょう。

次に、大学設立の目標と教育理念です。建学の精神は、「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」で、学術の研鑽とともにジェントルマンシップ・レディシップの醸成とスポーツを通じてのスポーツマンシップの体得が目指されてきました。スポーツマンシップについては、ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークを作る、相手に敬意を持つが四大綱として掲げられています。これは社会的存在としての人間が大事にすべき普遍的な理念で

す。中京大学はこれをベースに質の高い研究・教育、学術とスポーツの調和を求め社会に貢献できる優れた人材を育てることを目指してきました。そして現在の教育の目標には「自ら考え行動する、しなやかな知識人の育成」を掲げています。どうぞこのことも覚えておいてください。

第三に今中京大学は何を目指しているかです。一八歳人口が減っていきます。かつては二六〇万人であったのが今や一一七万人です。その中で国公立合わせて七八〇ほどの大学があります。当然学生を集めきれない大学もでてきています。本学は総志願者数が4万人を超えているので大丈夫です。本学ならではの特色を明確にし、ブランド力を発信し、有為な若者が目標をもって入学する大学であり続けるよう、学生・教員・職員がそれぞれベストを尽くす(それぞれですから Do my best!)、全体としては Do our best! をもって躍動する大学を目指しています。AI 人工知能がどんどん進化していき、人類の知能を超える転換点シンギュラリティも到来すると言われ、大学はどのように対応するかが問われますが、私は人間を教育する以上無機質な教育ではなく、個々の学生に対し成長を願う愛をもって教育することを願い、AI という語はアー・イーと読み、愛を思い浮かべたいと思っています。情報革命により知識・情報の得方が変化し、便利さの代償からか《考えること》が後退していると感じます。パスカルが言う《考える葦》たる人間の本性を大事にした教育、人間味の要素を失わない大学を求めていますと願っております。

皆さんにはこのような大学で学んだことを誇りとし、自信をもって羽ばたいていってください。

もう一点、学長として皆さんへの願いを添えます。ある調査によりますと、現代の生活感覚は、「公」より「私」、「先」より「いま」、「期待」より「現実」のようで、今日の社会は《いま》《ここ》《わたし》に向かう社会だそうです。さみしさを感じます。そんな中あの名作『星の王子さま』を書いたフランスの作家サン・テグジュペリの『人間の大地』という作品にこんな一節があります。「人間であるということは、責任を持つこと。人間であることは、自分とは関係がないと思われるような不幸な出来事に恥を感じることに。人間であるということは、自分の石を据えながら世界の建設に奉仕していることを感じることに」というものです。私たちは、私たちとともに世界を形成している人たちのことを思い、悲しい出来事も他人事とせず、この先の人たちに責任をもつということかと思えます。どうぞそのように生きていってください。

いよいよ皆さんを送り出す時がきました。卒業式はお別れのときではありますが、大学としては今後の活躍を

祈り、また会うことを願って皆さんを送り出すとき、皆さんにあつては新しいスタートを切るときです。その際の挨拶は、「さようなら、また会いましょう」でしょう。「さようなら」とはどういう意味でしょうか。「さようであるならば、、そのようであるならば、、お元気で」ということです。この式辞に当てはめてみますと、「述べてきたことはそのようなことですので、心に留めてください、お元気で」といったところです。英語ではどう言うでしょうか。《Good-bye! See you again!》でしょうが、Good-byeの意味はどういうものでしょうか。これは、元々《God be with ye》で、それが縮んだものだそうです。yeはyouの古い形ですから、God be with you! 前途が守られますように、お元気でという意味が込められています。そこで式辞ではないでしょうが、「さようなら、お元気で。また会いましょう」の思いを込め、《Good-bye》の歌を贈りたいと思います。お聞きください。アカペラです。

God be with you till we meet again,

By His counsels guide, uphold you,

With His sheep securely hold you,

God be with you till we meet again.

Till we meet, till we meet,

Till we meet once again;

Till we meet, till we meet,

God be with you till we meet again.

Good-bye! See you again!

2019年3月19日

中京大学長 安村仁志

おめでとうございます。